大学生の賞賛獲得欲求・拒否回避欲求と 両親に対する社会的勢力認知との関連

○三ツ村美沙子¹・高木浩人²

(¹愛知学院大学大学院心身科学研究科・²愛知学院大学心身科学部)

キーワード：賞賛獲得欲求，拒否回避欲求，社会的勢力

The Relationship of Praise Seeking, Rejection Avoidance Needs of Undergraduate Students and Perceived Social Power from Parents

Misako MITSUMURA¹ and Hiroto TAKAGI^{2, #}

(¹Graduate School of Psychological & Physical Science, Aichi Gakuin Univ., ²Aichi Gakuin Univ.)

Key Words: praise seeking needs, rejection avoidance needs, social power

目 的

自己呈示の方略として菅原（1986）は積極的な自己イメージを与えようとする場合と消極的な自己イメージを与えようとする場合があることを指摘し、その背景として他者から賞賛されたい欲求（賞賛獲得欲求）と他者から拒否されたくない欲求（拒否回避欲求）の2つの承認欲求の存在を明らかにしている。また本田・鈴木（2007）はこの2つの欲求が個人特性として安定的であることを示している。ではこのような対照的な承認欲求はどのようにして形成されるのだろうか。

承認欲求は他者との関係性に関する欲求であり、その形成を考える上で他者からの影響、とりわけその個人に対し長期的に影響を及ぼしうる存在である両親からの影響を検討することは重要であろう。本研究ではこのような持続的関係における影響力を説明する概念として社会的勢力（social power）を用いる。社会的勢力とは“ほかの人の行動、考え、感情などを自分の望むように変えることのできる能力”（今井，1996）であり、French & Raven（1959）は被影響者側の認知の観点から、報酬、強制、正当、専門、参照の5つの勢力基盤を挙げている。

本研究では、両親からの影響としてこれら5つの勢力基盤を扱い、両親の社会的勢力と大学生の賞賛獲得欲求・拒否回避欲求との関連について検討することを目的とする。

方 法

調査対象 大学生199名（男性103名，女性95名，不明1名），平均年齢18.76歳（18-23歳，SD=0.81）。

質問紙 1) 社会的勢力認知尺度（今井，1996）：勢力を従来の5分類に魅力勢力を加えた6つで捉えようとする尺度であるが、本研究ではFrench & Raven（1959）に基づき、魅力勢力を除いた計20項目を採用した。父母それぞれについて7件法で回答を求めた。2) 賞賛獲得欲求・拒否回避欲求尺度（小島・太田・菅原，2003）：因子負荷量の高い順に各欲求5項目ずつを使用し、5件法で回答を求めた。その他に性別、学年、年齢の回答も求めた。

手続き 2010年10月、心理学の授業時に質問紙を配布して回答を求め、その場で回収した。

結 果

信頼性分析 各尺度についてCronbachの α 係数を算出した。父親の正当勢力が $\alpha=.566$ と低かったが、重要な因子であるためこのまま分析に用いることとした。その他はすべて許容できる値であった（ $\alpha=.626 \sim .809$ ）。

勢力認知と承認欲求との関連 各承認欲求を目的変数、父親の各勢力を説明変数とした重回帰分析を行った（表1）。その結果、賞賛獲得欲求が $R^2=.069$ で有意であり（ $F(5, 164)=2.442, p<.05$ ），正当勢力が有意な正の関連を示していた（ $\beta=.229, p<.05$ ）。つまり、父親への正当勢力認知が高いほど賞賛獲得

欲求が高いことがわかった。また母親の勢力についても同様の分析を行ったところ、拒否回避欲求が $R^2=.126$ で有意であり（ $F(5, 169)=4.858, p<.001$ ），報酬勢力が有意な正の関連（ $\beta=.309, p<.01$ ），参照勢力が有意な負の関連（ $\beta=-.266, p<.01$ ）を示していた（表2）。つまり母親への報酬勢力認知が高いほど、また参照勢力認知が低いほど、拒否回避欲求が高いことがわかった。

考 察

賞賛獲得欲求は特に父親の正当勢力と、拒否回避欲求は特に母親の報酬勢力や参照勢力と関連していたことから、子どもの承認欲求への影響のしかたが父親と母親で異なることが示唆された。Parsons（1956）は子どもの社会化に関して、父親には家族と外部との間を調整する道具的役割が、母親には家族メンバー間の情緒を調整する表出的役割があるとしている。また河合（1980）は両親の役割として父性原理・母性原理といった概念を提唱している。今回の結果は、このような両親の異なった役割の観点から解釈を行うことが可能であると考えられる。

表1. 父親の勢力を説明変数とする重回帰分析

	賞賛獲得	拒否回避
報酬勢力	-.159	-.048
強制勢力	-.002	.083
正当勢力	.229 *	.168 †
専門勢力	-.107	-.033
参照勢力	.234 †	.152
R^2	.069 *	.062 †
自由度調整済み R^2	.041	.033

† $p<.10$, * $p<.05$

表2. 母親の勢力を説明変数とする重回帰分析

	賞賛獲得	拒否回避
報酬勢力	-.060	.309 **
強制勢力	-.029	.087
正当勢力	.243 **	.089
専門勢力	-.124	.145
参照勢力	-.004	-.266 **
R^2	.047	.126 ***
自由度調整済み R^2	.019	.100

** $p<.01$, *** $p<.001$

引用文献

French & Raven(1959) In Cartwright(Ed.) *Studies in social power*. ●本田・鈴木(2007)日本パーソナリティ心理学会第16回大会 ●今井(1996)影響力を解剖する ●河合(1980)家族関係を考える ●小島・太田・菅原(2003)性格心理学研究 ●Parsons(1956) In Parsons & Bales (Eds.) *Family, socialization and interaction process*. ●菅原(1986)心理学研究